

ACLSニュース

- 当プログラムのプログラム担当教員の瀧ノ上正浩准教授(情報理工学院)が、平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞しました。(業績名:人工細胞構築の生物物理に関するナノマイクロシステムの研究)
- 当プログラムの課程参加学生の北野翔平さん(生命理工学研究科 当時 D3)が2016年9月7日(水)~10日(土)に静岡県三島市で開催された第88回日本遺伝学会大会において、Best Papers 賞を受賞しました。(発表タイトル:脊椎動物間で高度に保存された上流 ORF から翻訳されるタンパク質のマウス個体解析)
- 当プログラムの課程参加学生の Batchunag Dashdemberel さん(情報理工学研究科 当時 M2)のチームが2016年11月19日(土)に東京大学で開催された学生向けアプリ開発コンテスト「JPHACKS 2016」において Best Hack Award を受賞しました。(受賞内容:冷蔵庫内の写真1枚から画像認識を行い、その食材を使った料理レシピを紹介するシステム「CookBot」の開発)
- ACLS 課程参加学生の活躍が「日経ビジネス」(2016年12月26日~2017年1月2日合併号)に掲載されました。
- 3月6日(月)~7日(火) ホテル KSP (川崎市)において平成28年度FD研修合宿を行いました。プログラム担当教員、外部評価委員、産業界若手メンター特定教員、事務員が参加し、最終年度に向けて ACLS の現状や将来に関する具体的課題の解決策について議論しました。
- ACLS 国際夏の学校 2017 の開催地がシンガポールの南洋理工大学に決定しました(期間:2017年9月5日(火)~9月12日(火))。今回のテーマは「Big data analysis for health and biomedical sciences」です。
- 3月12日(日)~15日(水)フロリダ州(アメリカ)において AUTM 2017 Annual Meeting が開催されました。ACLSからは4名の課程参加学生が参加し、技術移転(TLOの役割等)について学びました。
- 4月28日(金) すすかけ台キャンパスにおいて「ACLS 春の交流会 2017」を開催しました。新しい課程参加学生も加わり、楽しい会となりました。



人事異動

教員採用		
H29.4.1	特任助教	内古閑伸之
H29.4.1	特任助教	吉野龍ノ介
教員退職		
H29.3.31	特任准教授	董 芳艶
H29.4.30	特任助教	千葉峻太郎
H29.5.31	特任助教	原田 隆

教員昇任		
H29.4.1	特任講師	松崎由理
事務職員採用		
H29.4.1	リーディングプログラム事務員	奥田まちこ
H29.4.1	リーディングプログラム事務員	谷川富美子
事務職員退職		
H29.3.31	リーディングプログラム事務員	河野麻予
H29.3.31	リーディングプログラム事務員	蜂谷裕子

5th Bioscience and Biotechnology International Symposium の開催

2017年1月11日(水)、すすかけ台キャンパスすすかけホールにて第5回生命理工国際シンポジウム(生命理工学院と ACLS による共同主催)を開催しました。今年度は「Sense, Sensor, Sensation」をテーマに、2名の海外招待講演者、3名の国内招待講演者、そして2名の学内講演者に感覚神経系研究や分子検知技術、人工センサー開発における最先端の研究についてご講演いただきました。



- 招待講演者**
 Thomas Clandinin (Stanford University, USA)
 Paul Feinstein (Hunter College, USA)
 Atsushi Miyawaki (RIKEN BSI, Japan)
 Kiyoshi Toko (Kyushu University, Japan)
 Yoshihiro Yoshihara (RIKEN BSI, Japan)
- 学内講演者**
 Takamichi Nakamoto (Institute of Innovative Research, Tokyo Tech, Japan)
 Hiroshi Ueda (Institute of Innovative Research, Tokyo Tech, Japan)



編集後記

今号は博士課程修了生特集。学生本人達の晴れやかな表情をご覧ください。ACLS が輩出した博士学生はこれで計15名となりました。今回で3回目となる修了式ですが、我々スタッフは毎回嬉しさ寂しさ誇らしさ、様々な感情で涙腺との戦い。そうして新年度が始まり、もうすぐ夏が来ます!(YK)



ACLS Newsletter 第14号(2017年5月31日発行)
 東京工業大学 情報生命博士教育院
 (文部科学省 平成23年度「博士課程教育リーディングプログラム」採択)
 すすかけ台事務室
 〒226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町4259, J3-141 (J3棟407号室)
 Tel:045-924-5827 Fax:045-924-5930
 office@acsls.titech.ac.jp http://www.acsls.titech.ac.jp/

ACLS

Newsletter

vol. 14
2017.5

東京工業大学 情報生命博士教育院
 Education Academy of Computational Life Sciences (ACLS)
 (文部科学省 平成23年度「博士課程教育リーディングプログラム」採択)

contents

1—巻頭言~異分野に触れる楽しさ・魅力

2-3—平成28年度リーディング大学院修了式の開催

4—ACLS ニュース、人事異動、トピックス

巻頭言 ~ 異分野に触れる楽しさ・魅力



蒲池 利章
 情報生命博士教育院
 奨励金審査 WG 委員長
 メンター部会副会長
 生命理工学院 准教授

平成23年度にスタートした情報生命博士教育院(ACLS)では、申請の段階から関与させていただきました。申請段階から関係した教育プログラムは、ACLS が初めてでした。「生命科学と情報科学の融合分野」の強化を目指した博士課程教育リーディングプログラムとは?と個人的にもイメージがわからない中、私自身、大変勉強になると同時に、取りまとめをされている先生方に頭が下がる思いでした。

リーディングプログラムとしての予算支援は7年間であるため、本年度末で文部科学省からの手厚いサポートは終了となります。当教育課程は今後も東工大で継

続しますが、修士・博士一貫の5年間の教育課程であるため、その途中で事業終了を迎える学生が多くなります。そのため、リーディングプログラムの後半からの参加学生の数を、当初から心配していました。しかし、喜ばしいことにそれは杞憂にすぎませんでした。本年度が最終年度にもかかわらず、プログラムへの新たな参加希望者が多数いることから、このリーディングプログラムの中で構築してきた、ACLS の教育体系がいかに素晴らしいものであるかということの証明ではないでしょうか。

そういえば、私は、生物工学科という工学部でバイオを学ぶことのできる学科に魅力を感じ、東工大に入学し、化学をベースに生命現象を解明するという、学科に進みました。今となつては当然前の分野ですが、有機化学と物理化学、それから、少しの生物化学(立ち上げに関係された先生方には申し訳ありません。)を授業で学び、生物工学という専門分野で今でも研究を進めています。学生時代、親友からコンピュータの会社でのバイトを紹介してもらい、コンピュータのプログラミングを学ばせてもらい、深夜にユーザーの会社で、ホストコンピューター相

手に苦戦した経験もあります。また、学部4年生で所属した研究室では、レーザー医学専門の他大学の先生との共同研究テーマをいただきました。「東工大生ならこれくらいできるだろう」という無茶ぶりの中、測定機器をコンピュータで制御するプログラムなどを作り、それらを用いて研究していました。別の専攻に進学した親友からは、「ファイマン物理学」の勉強会を自主的にすることになったから遊びに来ないかと誘われ、よくわからずテキストを紐解いていたこともありました。(もともと、一番の魅力は勉強会後の飲み会でした。)

今思うと、東工大では、自分の専門以外の分野に触れる機会・学ぶ機会が以前からあふれていたと思います。また、新しいことを学ぶことの楽しさ、その魅力を早い時期に経験できたように思います。ACLS では、専門分野の先生方が英知を絞り、システムティックに異分野融合をはじめとする先進的な教育システムが構築されています。良い時代になったなと思うと同時に、貴重な経験ができたという修了生の言葉が最も励みになる7年間でした。このような素晴らしいプログラムが長くサポートされることを希望します。

平成 28 年度リーディング大学院修了式の開催

2017年3月27日(月)、大岡山キャンパスにおいて「平成28年度リーディング大学院修了式」(4教育院による合同開催)がとり行われました。同日の学位記授与式を終えた4教育院の博士課程修了生全24名には、三島学長、丸山理事・副学長、そして各教育院長からお祝いの言葉が述べられました。その後、各教育院からの修了生代表1名ずつが挨拶のスピーチを行ない、これまでの学生生活での経験や今後の抱負などを語りました。ACLSからは修了生全6名が出席し、代表の松原惇高さんは「ACLSで学んだコミュニケーション力を今後も生かして成長していきたい」と熱い想いをスピーチの中で伝えてくれました。今号のニューズレターでは、リーディング大学院修了式の様子

とともに、6名の修了生それぞれのコメントを紹介します。ACLSに入った時はラボも研究分野も異なる初対面の6名でしたが、ACLSで国際夏の学校や演習などを経験する中で、互いを理解し尊敬し高め合う「同志」のような関係になりました。それぞれ今後の進路は異なりますが、ACLSで形成されたネットワークはこれからも続いていくと期待されます。

さらに、この春に博士課程に進学したばかりのACLSの後輩からは今後の意気込みについてコメントをいただきました。また4月には修士課程のM1学生12名が新たにACLSに参加しました。横と縦のつながりが大きく広がるACLSを今後もご期待ください。



4教育院の博士課程修了生と参列者全員で集合写真(大岡山キャンパス西8号館E棟情報理工学院大会議室にて)



ACLS修了生を代表しスピーチする松原惇高さん



秋山泰教育院長(左)、三島良直学長(中央)、三原久和学院長(右)とACLS修了生の6名

今春、修士課程を修了したACLS学生に博士課程への意気込みを語ってもらいました。

先輩に
続け!

坂本和歌子 生命理工学研究科 修士課程修了(4月から生命理工学院D1)



生命を主軸に情報の知識を身につけ、グローバルに活躍できる「Γ型人材」。そんな魅力的な博士になりたいと思い、ACLSに参加しました。修士課程で実際に計算機ネットワークについて基礎的知識を学び、情報系の学生と共に簡単なプログラムを作成したことは、大変貴重な経験でした。また国際夏の学校に参加し、英語を話す度胸がただでなく、異文化の人と多くの出会いがありました。今ではその出会いが更なる出会いに繋がり、人脈が広がっています。今後も仲間と切磋琢磨し、博士課程の本業である自らの研究を怠ることなく、Γ型人材を追究していきたいです。



修士課程修了式後、大岡山キャンパス本館前にてACLS課程参加学生の横地佑一さん(左)、坂本和歌子さん(中央)、山下仁義さん(右)

平成28年度

情報生命博士教育課程修了生 (全6名)



伊澤和輝 生命理工学研究科修了・博士(理学) 進路 東京工業大学博士研究員

以前「引っ越しをすると友達が増える」というCMがありましたが、これと同様に「異分野に足を踏み入れることで人脈が広がる」を実感したACLS課程であったと追想します。Γ型人材を目指す過程で、実験と情報解析、ラボとフィールド、日本とドイツを行き来し、異分野(文化)の知り合いが増え、貴重な体験をすることができました。これからも異分野(文化)に踏み込んで行くことで、新しい繋がりを形成し、車軸のような人間を目指したいと思います。



大塚慎平 生命理工学研究科修了・博士(工学) 進路 中外製薬(株)

ACLSの皆様がいつも温かく支えて頂いたおかげで卒業まで辿り着くことができました。英会話や留学、異分野の専門科目の学習など、自分で手を出すにはハードルが高いことを経験できたことはとても幸運だったと思います。特に海外インターンシップでは、基礎研究と臨床研究の架け橋を担う分野横断的な研究を行うことで、自分の専門分野を客観的に見ることができるようになりました。このような機会を頂いたことに感謝しています。



長谷川智也 生命理工学研究科修了・博士(理学) 進路 三井物産(株)

私は当初、博士課程に進むことを迷っていましたが、ACLSという魅力的な教育院が設立されることを聞き、進学を決意しました。実際、ACLSは大変素晴らしいカリキュラムを提供してくださいました。もう一つ、ありがたかったことは、研究者を志す多くの友人を得られたことです。研究活動は閉鎖的になりがちですが、ACLSのおかげで、多くの他分野の友人と切磋琢磨できました。今後もACLSで学んだことを生かし、社会に貢献したいと思います。



早川雅之 総合理工学研究科修了・博士(理学) 進路 理化学研究所(神戸)博士研究員

ACLSに参加して多くの学びを得ることが出来ました。特に、英語能力に関する講義、海外での長期滞在や夏学により培われた国際感覚はACLSなしでは得ることはできませんでした。また、ベンチャー創業者や、企業研究者のお話を聞いたのも大変貴重でした。自分は大学・研究所で研究する道を選びましたが、ここで得られた知識や考え方は今後も役立つと信じています。最後に、5年間支えてくださった先生方やスタッフの皆様感謝いたします。



松原惇高 生命理工学研究科修了・博士(工学) 進路 (株)資生堂

ACLSで過ごした5年間は学ぶことが非常に多く、研究者として大きく成長できたと自信をもって断言できます。情報科学の授業のみならず、国内外のインターンシップなどの多岐にわたる経験はどれも非常に密度が高く、地球にとどまらず、「宇宙」規模まで視野を広げ、ものごとを考えるきっかけとなりました。将来、ACLS修了生および関係者の皆様と、よりHappyな宇宙にするために協力し、新たなことへ挑戦できることを楽しみにしています。



矢野雅大 生命理工学研究科修了・博士(工学) 進路 (株)ナビタイムジャパン

学部時代までは情報系について独学していたものの、ACLSで情報系の学生さんや先生方と交流出来たり、情報系の授業を受けられたのは貴重な経験でした。他にも夏の学校では学生実行委員会の委員長をやらせていただいたり、生命系のウェットな実験を経験する機会などもいただきました。終始優しいスタッフの皆様と優れた仲間や先生方に恵まれたおかげで、なんとかこの度卒業できたのだと思います。ありがとうございました。